



# 高砂青松 Rotary Club

The Rotary Club of Takasago Seisho, Japan



## 例会記録 2006. 11. 8 (水) 通算1364回

ソング 「奉仕の理想」「歓迎歌」

来訪ロータリ アン報告 大村 泰司 様 (高砂R.C.)

出席報告 11月8日 会員数 58名 欠席者17名 出席率 68.52%  
(この内出席免除者2名, 病欠2名)  
10月25日 会員数 58名 欠席者 6名 出席率 88.89% <修正による>  
(この内出席免除者2名, 病欠2名)



⑩ S.A.A 菱田克己 さん  
〔播磨コピー工業(株) 代表取締役〕

## 第17回高砂市囲碁まつり 平成9年11月30日

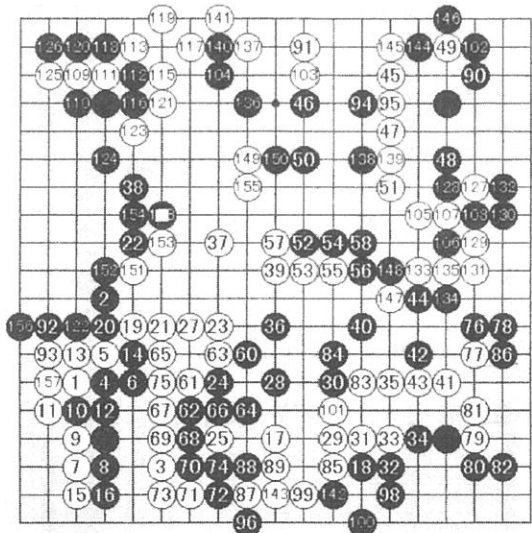
### プロ・アマ、お好み対局(四子局)

プロ○ 橋口美香 四段

アマ● 菱田克己 アマ四段  
(私の会心の一局)

158手完  
黒中押し勝ち

アゲハマ  
2○ 2●



会長 志方正昭 幹事 中右和宏 クラブ会報委員長 竹原俊三  
例会日時 毎週水曜日 12:30 例会場 高砂商工会議所会議室(2F)  
事務局 高砂商工会議所内 〒676-0064 高砂市高砂町北本町1104 電話 (079) 443-0500(代)

### 卓話 (11月8日例会)

## より良い在宅医療・看取りのために

青木 裕加 会員  
〔医療法人社団 魚川医院理事長〕

本日、卓話をさせて頂く青木です。

今日の私の卓話は、家を継いだきっかけから、今何を考えているのか?等をお話したいと思います。

私には3歳上の兄がおり、現在放射線科として勤務医をしています。幼い頃から、家は兄が継ぐものと思っていました。内科を選んだ理由は、骨髄移植に興味があったからです。当時勤務医をしていた私はお正月に休みが取れ、実家に帰ってきました。1日だけの休みだったので、とても楽しみにしていたところ、早朝から起こされ父の患者さんの死亡診断のため、運転手を引き受けるはめになりました。患者さん宅につくと父は仏ちょう面した私に白衣を手渡し死亡診断をするように命じました。それまで私が病院で行っていた死亡診断は、心電図モニターが「0(ゼロ)」になった事を説明し「〇時〇分死亡確認とします」というだけのものでしたが、父の往診カバンの中には死亡確認のためのセットが入っていました。その中で角膜反射をみるために、綿球で手作りされたコヨリを見た時、父の医師としての姿勢を感じ、看取りとは何か?という思いが大きくふくらんできました。そして「人の一生と向き合える医師になりたい」という思いから将来医院を継ぐ決意をし、その年の4月に神大第2内科に移籍するも同年12月に父が他界しました。数年間は医局からの代診+私も研究や病院勤務のあい間をぬって帰る事につながりましたが「いつ来ても先生が違う」「夜はどうしたらいいの?」等患者さんの不安・不満の声が聞こえてきた事、またグループ長から「皆と同じ道を歩みたい気持ちはわかるが自分にとって今本当にしないといけない事が何なのか考えた方がよい」と背中を押され、先ではなし今継ぐ事を決意して帰ってきました。



帰ってくると当然往診の問い合わせがありました。小さい頃から往診を見て育った私としては、来られなかった患者さんに自分から向かって行くのはごく自然な姿勢であり、当然の事として始めましたが、実際始めてみると自分の思っていた昔から持っていた往診のイメージに違いを感じました。なにが違うのか?

1つ目は、医療の進歩です。昔は高齢者が食べられなくなって亡くなる、いわゆる老衰も多くありました。今は、中心静脈栄養や胃ろう等色々方法があります。腹膜かん流や透析まで在宅で...という時代になり、非常に高度な医療まで在宅で行えるようになったという事です。

2つ目は、世の中が病院指向になったことです。昔は家で看取る事が前提で往診するケースが殆どでした。今はとりあえず往診、最期まで家で看取るかどうかは後回しのケースが多いというのが事実です。国公立病院のみならず個人の病院も増え、若者の肺炎ですら入院加療するという時代になり自宅で医療が行われる事にも慣れていません。ましてや高齢者となると、その戸惑いは大きいも

本誌は、職場や家庭に持ち帰って、皆さんで一緒に読み下さい。

があります。「抜針は?」「点滴もれの確認は?」「食べられない時の食事の工夫は?」…入院では点滴だけと思われても実は「医療+αの部分があり」、この+αが在宅では介護・看護として、のしかかって来ます。又この「+α」は高度な医療になる程大きくなります。つまり私独りが「最期までつき合いたい」と思っても+αを解決しなければ無理なのです。

より良い在宅医療・よりよい看取りのために「在宅看護・介護そしてそれを医療の目でプランニングできるケアマネを!!」という思いから4年前に訪問看護・訪問介護・居宅介護支援事業所を開設しました。又往診に行く中で多くの寝たきりの方をみてきました。「寝たきりは寝かせきりから」が実践されている家庭が多くあります。ADLの改善・少しでも寝たきりを予防する事は本人の苦痛軽減だけではなく家人の介護の軽減としても重要です。

そこで通所リハビリを設立したのですが、通所リハビリの設立にはもう1つ理由がありました。私の父は合計6回脳血管障害で倒れ最終右半身不随になりました。「もう一度聴診器を持ちたい」その一心でリハビリに励みましたが名高い急性期病院ほどリハビリには冷たく、父の願いを叶えてくれたのは病院のリハ室ではなく訪問リハビリをしてくれた理学療法士でした。又繰り返す入院の中で多くの患者さんとその家族の戸惑いを見てきました。いつか土地を開放して脳血管障害をはじめとする慢性期といわれ、行き場の失った人達のリハビリを行いたい。リハビリの大切さを伝えたいという思いがありました。今年で開設3年目、いつか地域の脳血管障害のリハビリを一手にまかせてもらえる施設にしたいという夢をもって歩んでいます。

President 会長の時間

ガバナー補佐は、加古川、高砂の五クラブの輪番制になっており、次年度は当高砂青松ロータリークラブが当番になっております。10月初めの理事会で選考委員が歴代会長と言う事で承認され、その選考委員会の中で色々検討いただいた結果、田水会員が最適者であると決定し、田水会員にご無理をお願いしてお引き受けいただきました。ガバナー補佐は何も一人の責任ではなくて、クラブ全体の責任であると言う考えをお持ちいただき、当クラブの全メンバーが田水会員を補佐するという姿勢を一年間貫いていただきたいと思います。田水会員には一年間ご苦労かけますがよろしくお願いいたします。

Secretary 幹事報告

第15回 通算1293回

1. ガバナー事務所より  
ガバナー月信第5号の「ロータリー財団月間に因んで」の内容に誤りがありましたので訂正文を回覧致します。
2. ロータリーワールドとロータリアン誌が届いております。
3. 高砂市吹奏楽団より第23回定期演奏会の案内  
日時：2006年11月23日(木・祝) 14:00～  
場所：高砂市文化会館大ホール  
入場料：無料
4. 財団法人ひょうご子どもと家庭福祉財団より「2006ハンディキャップにまけないサマープログラム募金」のご報告とお礼状が届いております。
5. 国際ソロプチミスト加古川より  
第24回チャリティーバザーの開催の案内  
日時：2006年12月5日(火) 10:00～15:00  
会場：加古川プラザホテル  
チケット代金1人500円をお願い致します。
6. 大村病院 二見安紀子様よりお礼状が届いております。

Donation ニコニコ報告

志方 正昭・栗原 康高・澤田 孝彦  
菱田 克己・柿木 國夫・岡本 崇司

花を飾りましょう。

西田 光衛

去る五日の大法会に大変お世話になった方が沢山おられます。

鹿間 虹美

今、のじぎくが満開。馬坂峠のそれは圧巻です。ぜひご一見を、ここ一週間が見頃。

青木 裕加

結婚記念のお祝を頂き有難うございました。今日は卓話でドキドキしています。

西中 亮二

青木さん、母がお世話になります。卓話楽しみにしています。

菊地 敬子

青木先生、今日は「ぶっとび卓話」を楽しみにしています。

庄司 武

はずかしながら「宝物のワンショット」に出演させていただきました。ありがとうございます。

辻田 重恵

誕生祝有難うございます。

中右 和宏

久しぶりに司会をさせていただきます。

竹原 俊三

庄司さん、『宝物のワンショット』に写真と記事提供有難うございました。お蔭様で良い企画となりました。

嶋谷 拓雄

早退いたします。

国際奉仕委員会より  
～高砂国際交流協会主催  
餅つき体験&世界の料理を囲む会～  
・日時 11月12日(日曜)  
10時～15時  
・会場 市ノ池公園  
バーベキューサイト

次年度ガバナー補佐  
**田水敬雄さん に決定!**

あなたの運を開く黄金律 ⑭

求めよ、さらば与えられん。  
尋ねよ、さらば見出さん。  
門を叩け、さらば開かれん。

新約聖書 マタイ福音書7:7)

人は落ちこんだ時に、この聖句を身をもって体験できるのならば、必ずや道が開かれます。少なくとも今よりも目を上げることです。

プログラム予定

11月15日(水)	11月22日(水)	11月29日(水)	12月6日(水)
卓話 藤本明久 会員	卓話 森脇祥文 会員	卓話 伊藤勝之 会員	上期事業報告